

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	NBC偵察車	担当部局	経理装備局艦船武器課
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成21年11月～平成22年3月

<b>事業の内容</b> 化学防護車及び生物偵察車の後継として化学防護隊（小隊）等に装備し、広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察（検知、識別等）し、じ後の部隊運用等に必要なる情報を収集するために運用されるNBC偵察車を開発する。  (NBC: Nuclear, Biological, and Chemical 核・生物及び化学)	<b>事前評価時（概算要求時）</b> <table border="1"> <tr> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>完了年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試作</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>21年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>試験</td> <td></td> <td>経費総額</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>約43億円</td> </tr> </table>	17	18	19	20	21	完了年度		試作				21年度				試験		経費総額						約43億円
	17	18	19	20	21	完了年度																			
	試作				21年度																				
			試験		経費総額																				
					約43億円																				
	<b>実施結果</b> <table border="1"> <tr> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>完了年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試作</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>21年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>試験</td> <td></td> <td>経費総額</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>約39億円</td> </tr> </table>	17	18	19	20	21	完了年度		試作				21年度				試験		経費総額						約39億円
17	18	19	20	21	完了年度																				
	試作				21年度																				
			試験		経費総額																				
					約39億円																				

評価の内容

事業の目的

核・生物・化学（NBC）武器に対しては、その被害を局限し作戦・戦闘全般への影響を最小限にする必要があり、そのためには早期に汚染地域等の状況を解明し、適切な防護等の処置を講ずる必要がある。  
 このことから、広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察し、じ後の部隊運用等に必要なる情報を収集するためのNBC偵察車を開発することを目的とする。

②達成時期

平成17年度から試作に着手し、当初の計画どおり平成21年度までに技術試験及び実用試験を終了し、開発を完了した。

達成状況

①達成効果

以下の技術的課題を達成したことにより、広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察できるNBC偵察車を開発することができた。  
 ア 多種センサシステム化  
 イ システムレイアウトの最適化  
 ウ NBC防護性能の向上  
 エ 耐振動・耐衝撃性能の向上  
 オ ライフサイクルコストの抑制

③教訓等事項

システム・インテグレーションによりNBC偵察機能の一車搭載を実現し、技術基盤の育成に大きく寄与したものと考えられる。  
 ライフサイクルコストの一層の抑制のために、今後とも将来の装輪戦闘車両のファミリー化構想について検討を進めていく必要がある。

今後の対応

今後、化学科部隊等への整備を進める予定である。

その他の参考情報

平成16年度 事前評価「NBC偵察車」